



岡田 聡議員

交通安全対策の徹底を

今後も県に要望

問 山陰道淀江〜大山インターチェンジ間が開通し、アクセス道路の県道

バイパス大山口停車場線も供用開始される。とても便利になる反面、県道の交通量の増大により危険性が高まる。

(1) 県道を横断して通学する小・中学生や高校生の交通安全対策が必要だが

どう対処するのか。

(2) 大山インターチェンジや県道バイパスを利用して大山に向かう車、高田工業団地へ出入りする大型車など大山道路の交通量の増大も予想される。

特に幅員の狭い中高地内では大型車同士のすれ違いでは一方の車が停車してやり過ごしたり、歩

行者や自転車は止まって大型車の通り過ぎるのを待つ状態である。道路拡幅と歩道の設置が急がれるがどうか。

答 (山口町長)

インターチェンジが出来、接続する県道との交差点では車の流れ、交通量など交通環境に変化が起り、利便性が高まる反面危険性が増すことは想定できる。安全性の確保について、信号機の設置、道路整備の必要性も十分理解している。

(1) 接続道路に信号機の設置を昨年度に続き要望していく。
(2) 大山に向かう県道の幅員の狭い箇所や、歩道の未整備箇所の事業実施に向け、地元の皆さんの協力を得ながら今後も県に対し要望活動を続けていく。



交通量が増大した県道交差点 (末長)

小規模農家の存続施策を

町独自の農業対策は難しい

問

農水省は、今年度から戦後農政の大転換と触れ込む農政改革に踏み出している。担い手農家を本格育成する「品目横断的な経営安定対策」、「米政策改革推進対策」と、環境保全型農業支援措置「農地・水・環境保全向上対策」の三つになった。

(1) 小規模農家は、「農地・水・環境保全向上対策」に取り組みねばならないが、合意形成が難しい面もありなかなか進まない。小規模農家も国土保全や環境保全上で重要な存在である。助成要件の緩和は出来ないか。また、町

独自の農業対策は出来ないか。

(2) 大谷溜池は慢性的に水量不足で、稲に多くの水を必要とする時期には、末端の水路は何ヶ所も枯渇する。

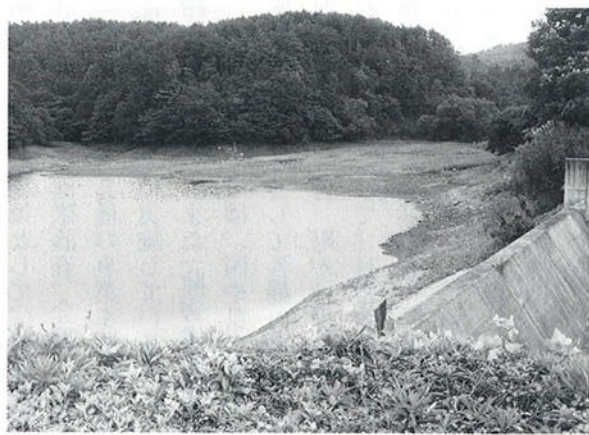
耕作放棄が広がる現状にあつて、せめて水管理に多くの労力を浪費しなくて良いような対策が必要と考える。

奥部の壊れている溜池の整備は出来ないか。

答 (山口町長)

(1) 農地・水・環境保全向上対策は、地域の共同活動により農地・農業用水等の資源や環境の保全向上を地域全体が支えあう仕組みを支援するものである。

今年度から本格導入され本町でも25組織が取組みを始めている。しかし、制度が複雑で非農家を含めた合意形成が必要な上、



渴水になる大谷溜池

事務処理の煩雑さなどが負担となり、取組みを断念するケースもある。今後は事務手続きの簡素化を求めていきたい。但し、始まったばかりで、要件の緩和は難しいと考える。町独自の農業対策事業は困難であり、既存制度を有効に活用していただきたい。

(2) 溜池改修は、関係者の要望により、県営または団体営溜池等整備事業で対応している。改修要望があれば、地元・県と十分協議の上で対応したい。